

## 夏休み無事終了。いよいよ二学期です。

35日間にわたる長い夏休みも終わりました。

ひとりひとりの子どもたちはいろいろな場面で持てる力を十分に発揮し、大きな成長を見せてくれました。

## 厳しい残暑の中、がんばっています。

全国的に記録的な酷暑が続く中、第二学期がスタートして早1週間が過ぎようとしています。この厳しい暑さにもかかわらず、小塩江中学校の生徒たちは猛暑を吹き飛ばす勢いでがんばっております。夏休み中の子どもたちの活躍を紹介します。

### ☆ 少年の主張大会 ☆

8月4日（木）に須賀川市文化センターで開催され、3年生の渡邊咲良さんが優良賞を受賞しました。内容については、裏面をご覧ください。命の尊さについて述べた素晴らしい内容です。また、今回の大会では本校3年の吉田健人さんと生田目菜月さんが進行を務めました。



(渡邊咲良さん)



(進行の吉田健人さんと生田目菜月さん)

☆ 野球部 ☆ 祝 優勝 ○健全育成中学生軟式野球大会(7/30)

### 【 岩瀬地区英語弁論大会 】

8月30日（火）大東公民館にて開催され、本校からは3年生の生田目菜月さんが「創作の部」、1年生の大和田光希くんが「暗唱の部」に出場します。ふたりとも夏休み中の練習の成果を十分に発揮し、校内発表会では素晴らしい発表をしてくれました。本番も頑張れ！

### 【 岩瀬地区小・中学校音楽祭 】

8月18日（木）須賀川市文化センターにて開催され、本校生で結成した合唱団が出場しました。課題曲「結い」と自由曲「Y E E L」を演奏しました。すばらしい歌声で、全校体制での取り組みはまさに小塩江中ならではのものです。見事に銀受賞！感動をありがとう。

### 奉仕作業お世話になりました。

8月28日（日）の早朝6：30より多くの保護者の方々のご協力をいただき、校地内の除草作業を行いました。すっきりした環境の中で、子どもたちはこの二学期を、学習や部活動、多くの行事に気持ちよく取り組んでいくことができます。ありがとうございました。



開会式の様子  
PTA会長、環境委員長あいさつ



作業の様子  
生徒たちが草集め

「喜びと感謝と敬いの心をもっていただきます。」

これは、修学旅行の時に薬師寺のお坊さんから教えてくださった言葉です。その後、ホテルで夕食をとるときに、私達は、みんなで手を合わせ、この言葉を言う前から、食事をいただきました。安心して、楽しく食事ができることに喜びを感じるとともに、この時改めて私は、動植物の命をいただいて、「生きているんだ」と実感したのです。今まで私は、料理の材料としての肉や魚、野菜に対して、特別何の思いもなく食べていました。しかし、よく考えてみれば愛情をかけて大切に育てられた動物や植物の命をいただいて、私達は元気に活動していたのです。逆に言うと、命をいただかなければ、私達の命は続かないのです。このことを実感したとき、私は少し震えました。私の命は、多くの命が支えてくれていたのです。牛や豚、多くの野菜は、私の口に入るまでに、どのくらい大切に育てられ、どれだけ多くの人の手を経てきたのでしょうか。その命をいただき、今、自分がここに生きていることに感謝したいと思います。

人間は勝手に、遺伝子の組み換えなどを行い、おいしいものを作り出しています。そして、質の違いが値段の違いになり、売り買いされています。命に値段がついていることは、あたりまえなのです。また、釣った魚が、きちんと食べられることなく捨てられます。調理されたお弁当が、大量に廃棄されます。命をいただいていると考えると、「これでいいのだろうか。」と疑問に思います。自然界では、生きるために必要最小限の殺生をします。殺した獲物は、無駄なくいただき命をつないで、子孫を残します。でも、人間は自然界の中でかなり横暴なふるまいをしていないでしょうか。命あるものが無駄に大量に捨てられる現実は、恐ろしいことです。自分の命を全うできず、他の動物の命にもなれない運命を、押し付けてしまう人間。私達は、もう少し人にも動植物にも敬いの心を持たなければなりません。私達の生活を支え、命を支える小さな命に、手を合わせるべきです。

ところで、私の家では「ビート」という犬を飼っています。散歩をしたり、庭で遊んであげるのは、私の役目です。私が九歳のときに飼いはじめたので、もう六年になります。母と弟は毎日餌をやります。父は、ビートにパンをあげるだけなのに、なぜかビートは父が大好きです。父の姿を見るなり、キャンキャン吠えて、大喜びです。二人には、何か特別な絆があるのでしょうか。このように、ビートは、完全に私達家族の一員で、欠かせない存在なのです。ビートが元気がないときは、とても心配になります。私達が、疲れて落ち込んでいるときには、ビートが和ませてくれます。私達家族の癒しになっているビートは、犬だけれど、同じ時を生き、心を支えてくれる一つの命なのだと思います。愛情をかければかけるほど、人間と犬以上の家族としての絆が深まっていくのがわかります。だから、ビートの命も最大限尊重してあげたいと思います。ビートが私の家に来て良かったと思ってくれるような暮らし方をしたいのです。

時々、人間の身勝手な理由でペットを放置し、駆除されるというニュースを耳にします。動物と人間の命の重さは、どれほど違うのでしょうか。動物の生活圏を脅かせば、動物は人間の生活を脅かします。

人間は生きるために動物や植物の命をいただき、心の支えとして動物に寄り添います。だから、共に生きる命に対し、畏敬の念を抱くとともに、もっと尊重すべきです。私達の命は、多くの命に支えられているのだから。